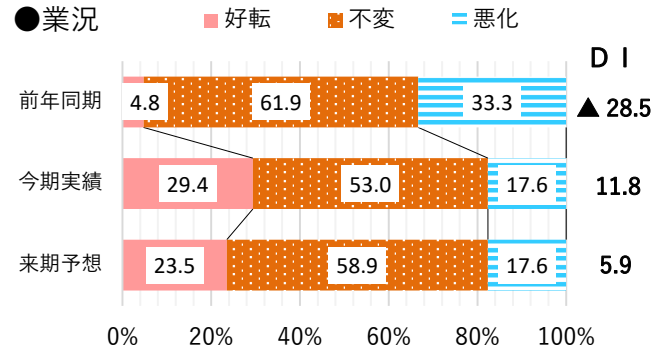


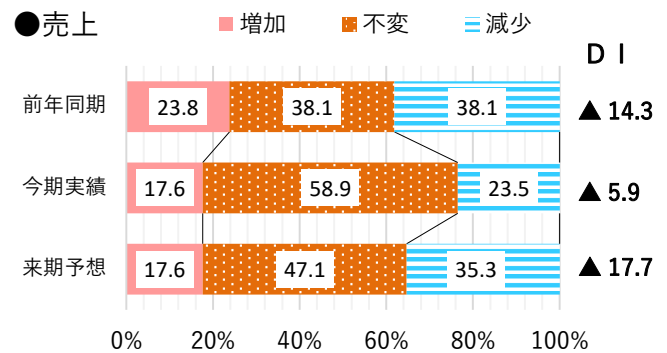
# 建設業

## 業況、売上、採算

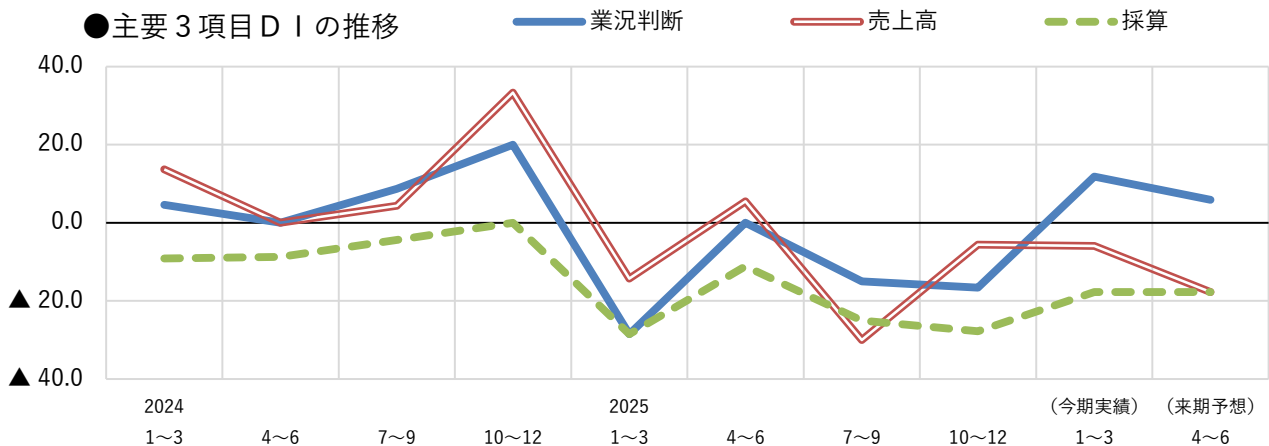
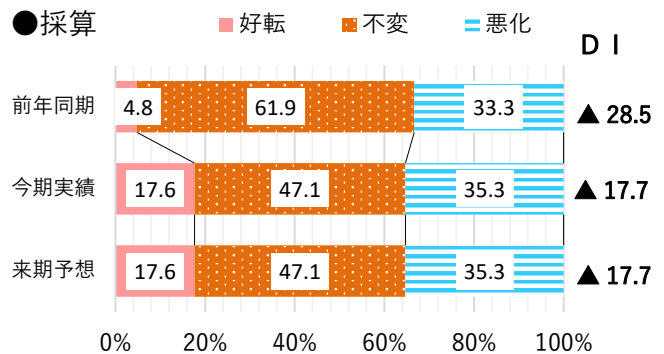
今期（2026.1～3）の業況DIは11.8で、前年同期（2025.1～3）と比べ40.3ポイントと大幅に上昇しました。  
来期（2026.4～6）の業況DIは今期（2026.1～3）と比べ5.9ポイント低下すると予想しています。



今期の売上DIは▲5.9で、前年同期と比べ8.4ポイント上昇しました。  
来期の売上DIは今期と比べ11.8ポイント低下すると予想しています。



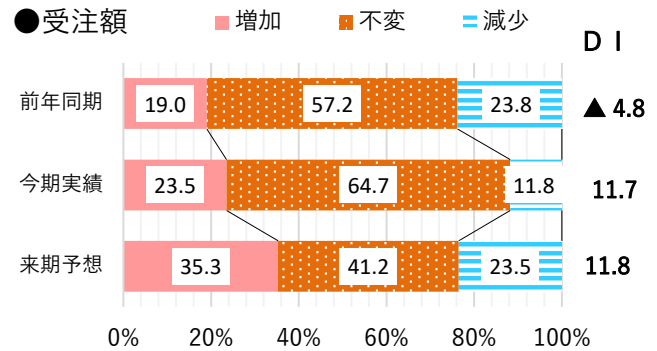
今期の採算DIは▲17.7で、前年同期と比べ10.8ポイント上昇しました。  
来期の採算DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

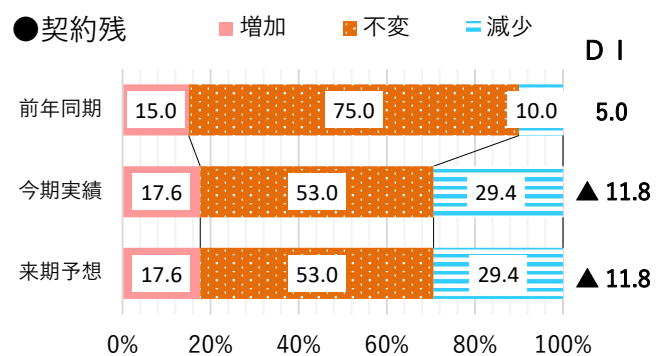
今期の受注額DIは11.7で、前年同期と比べ16.5ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは受注額と比べ0.1ポイント上昇すると予想しています。



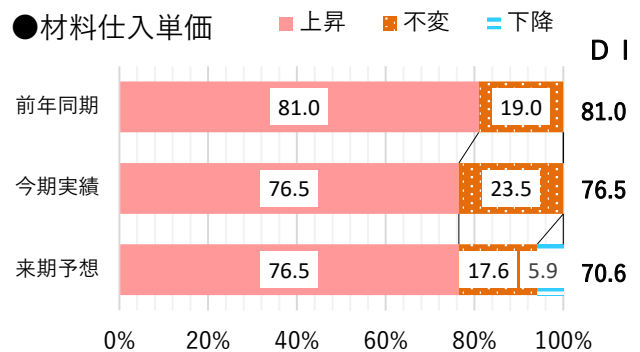
今期の契約残DIは▲11.8で、前年同期と比べ16.8ポイント低下しました。

来期の契約残DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の材料仕入単価DIは76.5で、前年同期と比べ4.5ポイント低下しました。

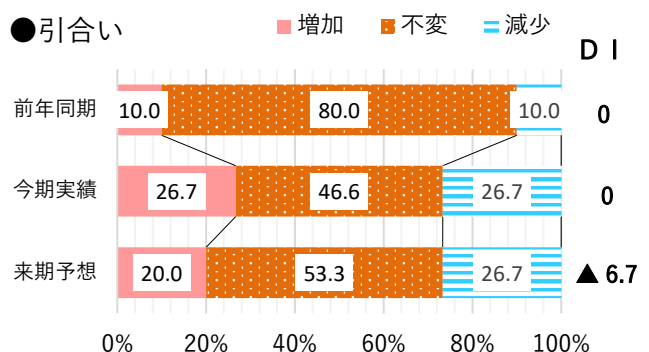
来期の材料仕入単価DIは今期と比べ5.9ポイント低下すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは0で、前年同期と比べ変化なしとなりました。

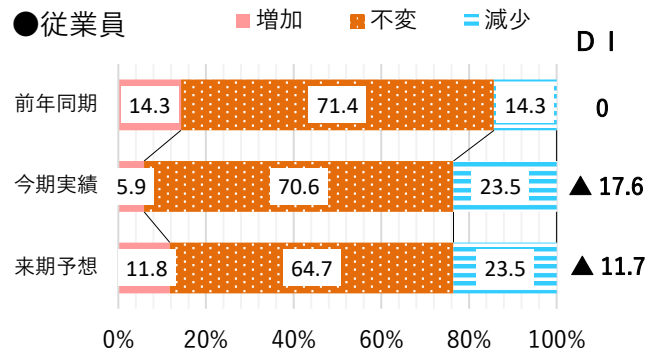
来期の引合いDIは今期と比べ6.7ポイント低下すると予想しています。



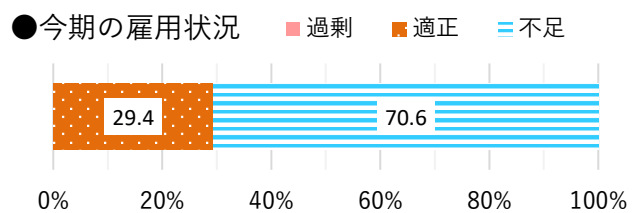
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲17.6で、前年同期と比べ17.6ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ5.9ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は29.4%、不足していると回答した企業の割合は70.6%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足である」という回答で、47.1%を占めました。

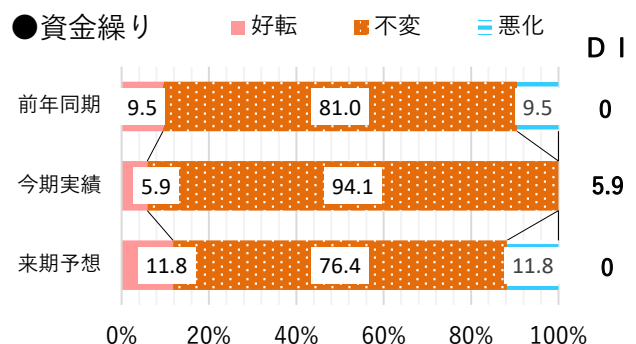
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	5.9%
	不足	0%
不変だった	過剰	0%
	適正	23.5%
	不足	47.1%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	23.5%

※回答総数17社

資金繰り、設備投資

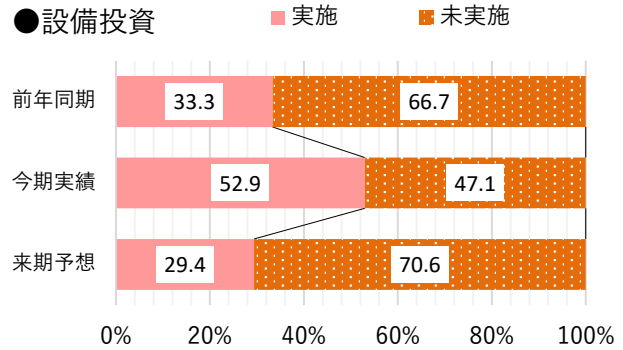
今期の資金繰りDIは5.9で、前年同期と比べ5.9ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ5.9ポイント低下すると予想しています。



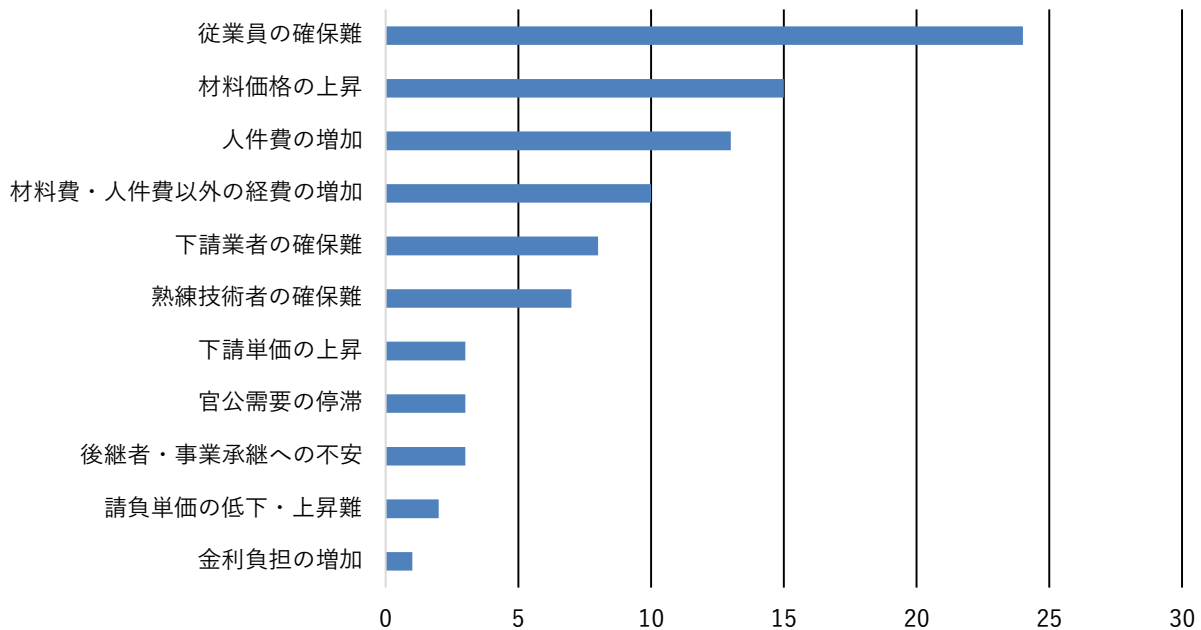
今期の設備投資は52.9%が実施と回答し、前年同期と比べ19.6%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」でした。

来期は29.4%が設備投資を計画していると回答しています。



### 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



### 企業の声

[今期の業況について]

- 全体的な物価の高騰により仕入価格と売上額がともに上昇し、経常利益は不変だった。  
(一般土木工事業)
- 中途採用者の定着率が芳しくない。(一般土木工事業)
- 人材不足が解消されない。(一般土木工事業)
- 人材不足が課題である。(一般土木工事業)
- この時期は工事の発注もなく毎年変化がない。(造園業)
- 売上額が減少した。(一般管工事業)
- 材料の仕入単価が上昇し、引き合いが増加している。また、受注数も増加しているが技術者不足で消化できていない。(電気工事業)

[来期の業況について]

- 新卒、中途者の採用を継続していく。(一般土木工事業)
- 人材不足の解消の見込みはない。(一般土木工事業)
- 国の来年度予算の編成時期にもよるが、4月以降は工事の発注の増加が予想される。(造園業)
- 受注が急激に増加する見込みもないので業況は不変を見込む。(一般管工事業)